



C&F LOGISTICS

2023年3月期 第3四半期

# 決算説明資料

株式会社C&Fロジホールディングス

## ■ 営業収益

86,248百万円  
(前期比+2.1%)

- ▶ 新規物流施設の開設をはじめとする物流インフラの拡充に伴う新規業務の獲得。
- ▶ 行動制限の緩和による外出機会の増加に伴い、業務用食品や首都圏におけるコンビニエンスストア向け商品の取扱物量が回復傾向。

## ■ 営業利益

4,060百万円  
(前期比△7.6%)

- ▶ 原油価格の高騰をはじめとするエネルギーコストの大幅上昇により、燃料費・動力費が大きく増加。燃料サーチャージなどの応分の料金交渉を行うものの、増加額をカバーしきれず。
- ▶ 従来から引き続き正社員登用による定着化・業務内製化を推進しており、準社員・臨時要員が減少する一方で、正社員が増加したことで労務費が増加。加えて処遇改善を計画的に進めたことも労務費増加に影響。

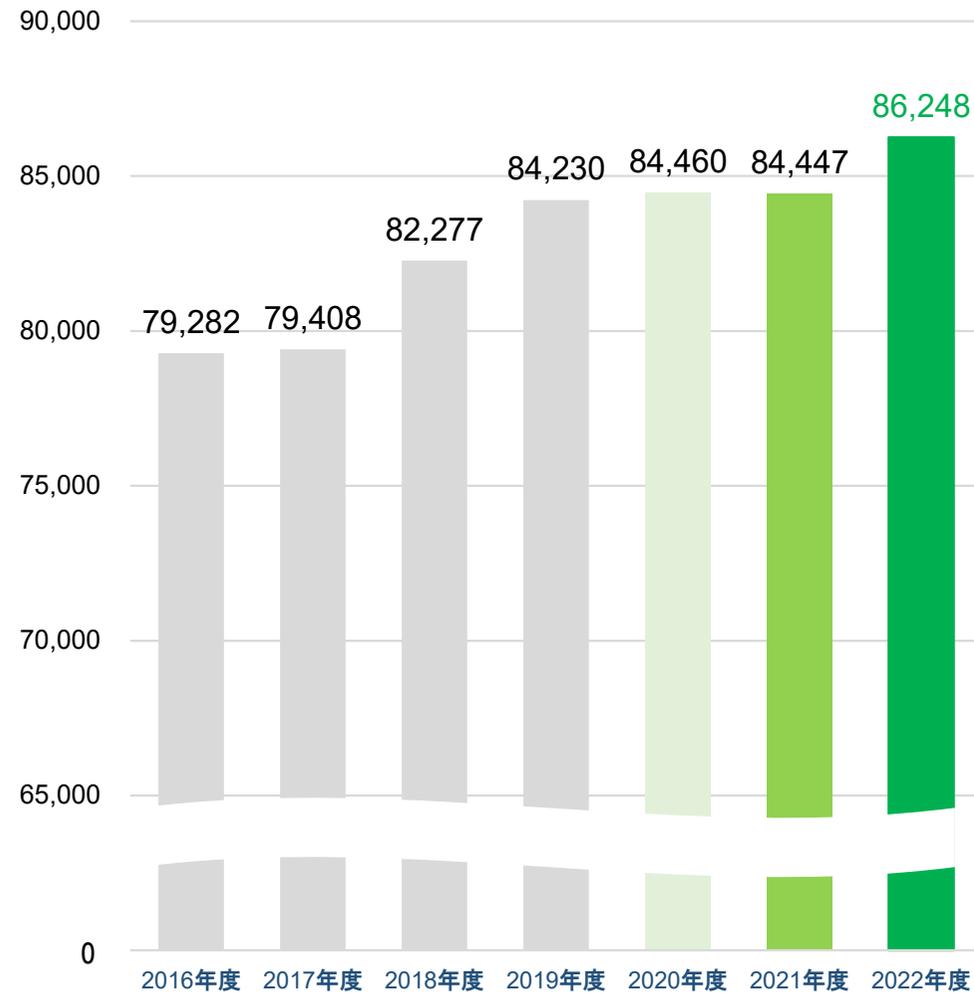
# 決算概要(ハイライト)

(単位:百万円)

	前期実績		当期実績			
		収入比		収入比	対前期増減額	増減率
営業収益	84,447	100.0%	86,248	100.0%	1,800	2.1%
営業原価	77,082	91.3%	79,114	91.7%	2,031	2.6%
販売費及び一般管理費	2,970	3.5%	3,073	3.6%	102	3.5%
営業利益	4,394	5.2%	4,060	4.7%	△ 334	△7.6%
経常利益	4,766	5.6%	4,491	5.2%	△ 275	△5.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,212	3.8%	3,066	3.6%	△ 146	△4.6%

## 営業収益

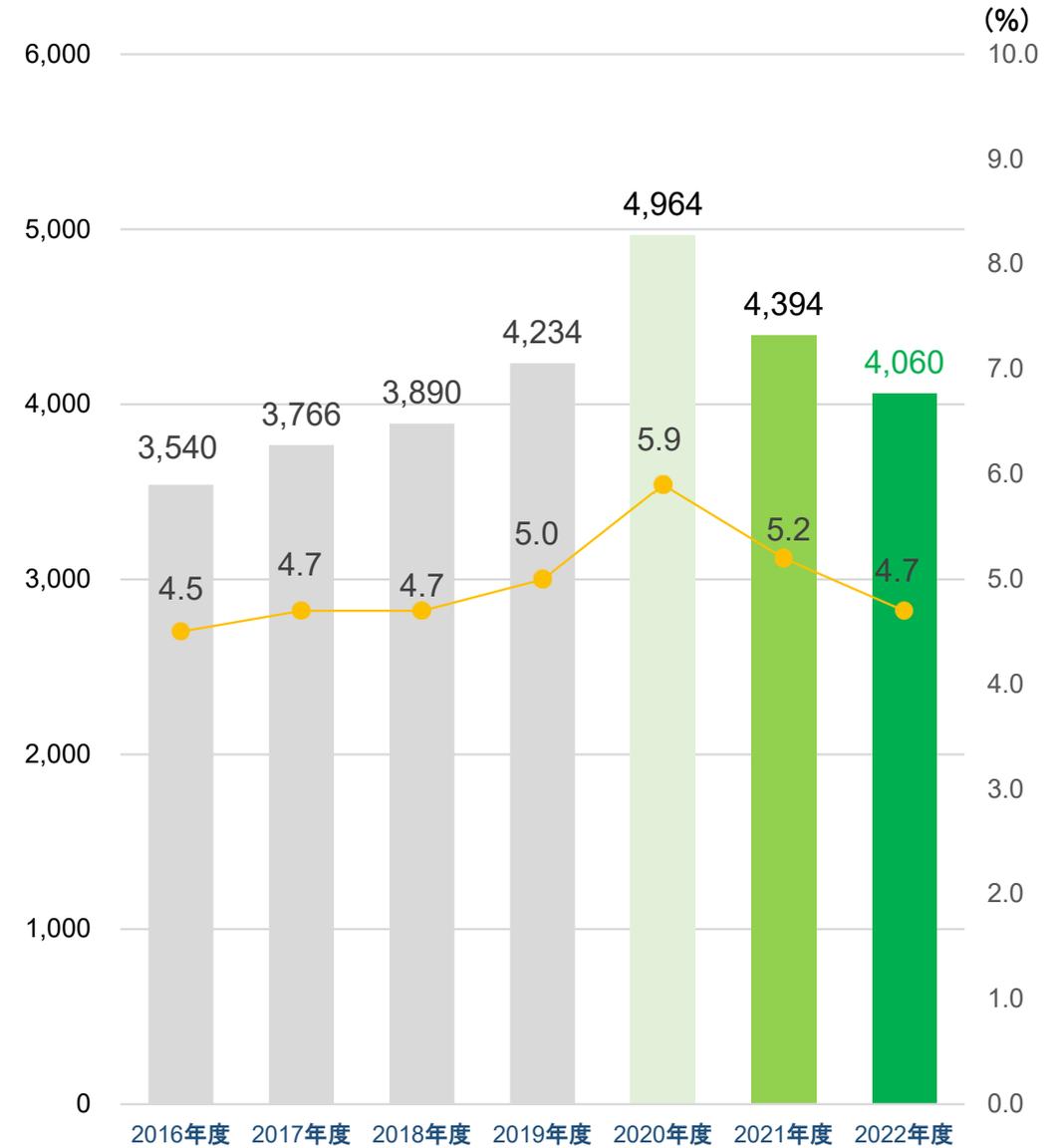
(百万円)



## 営業利益

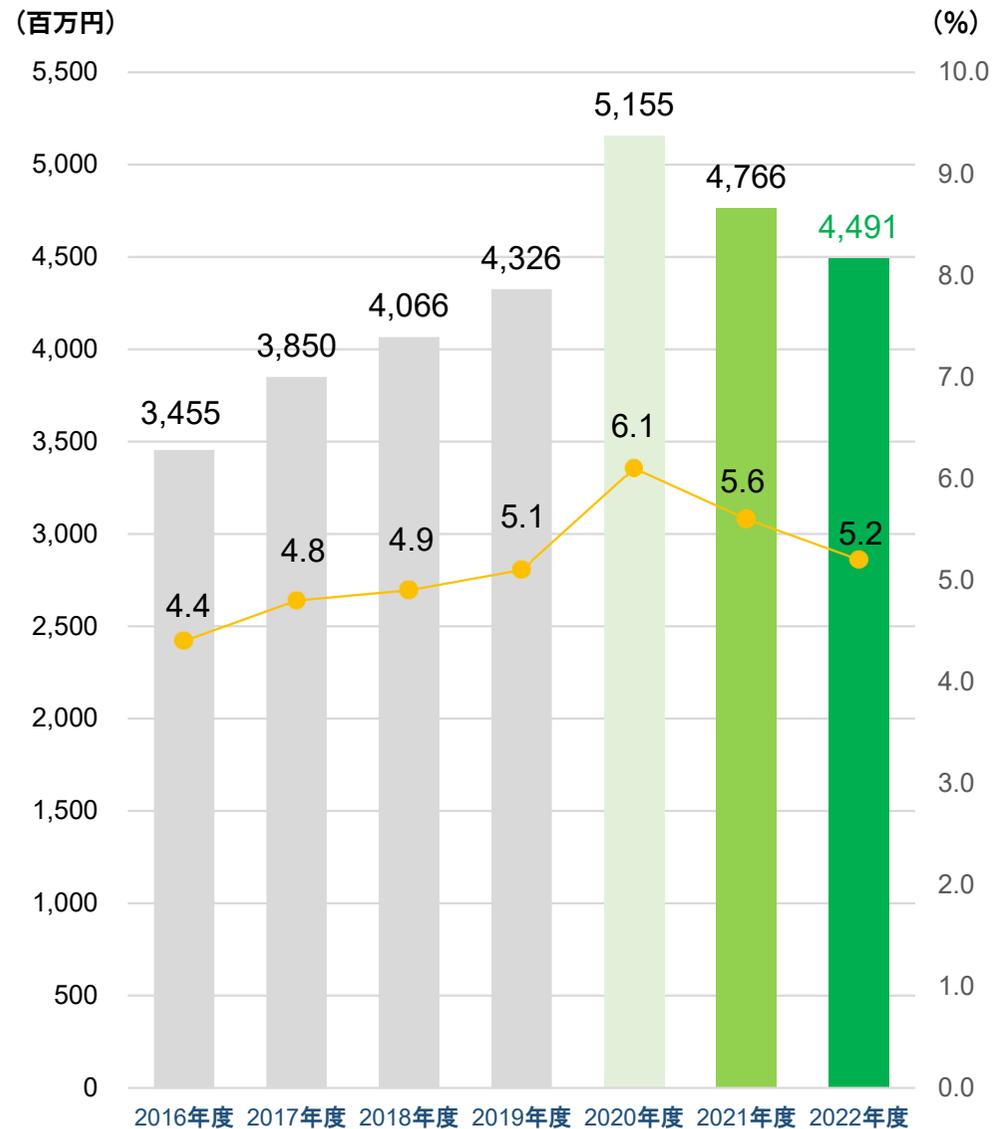
(百万円)

● 利益率



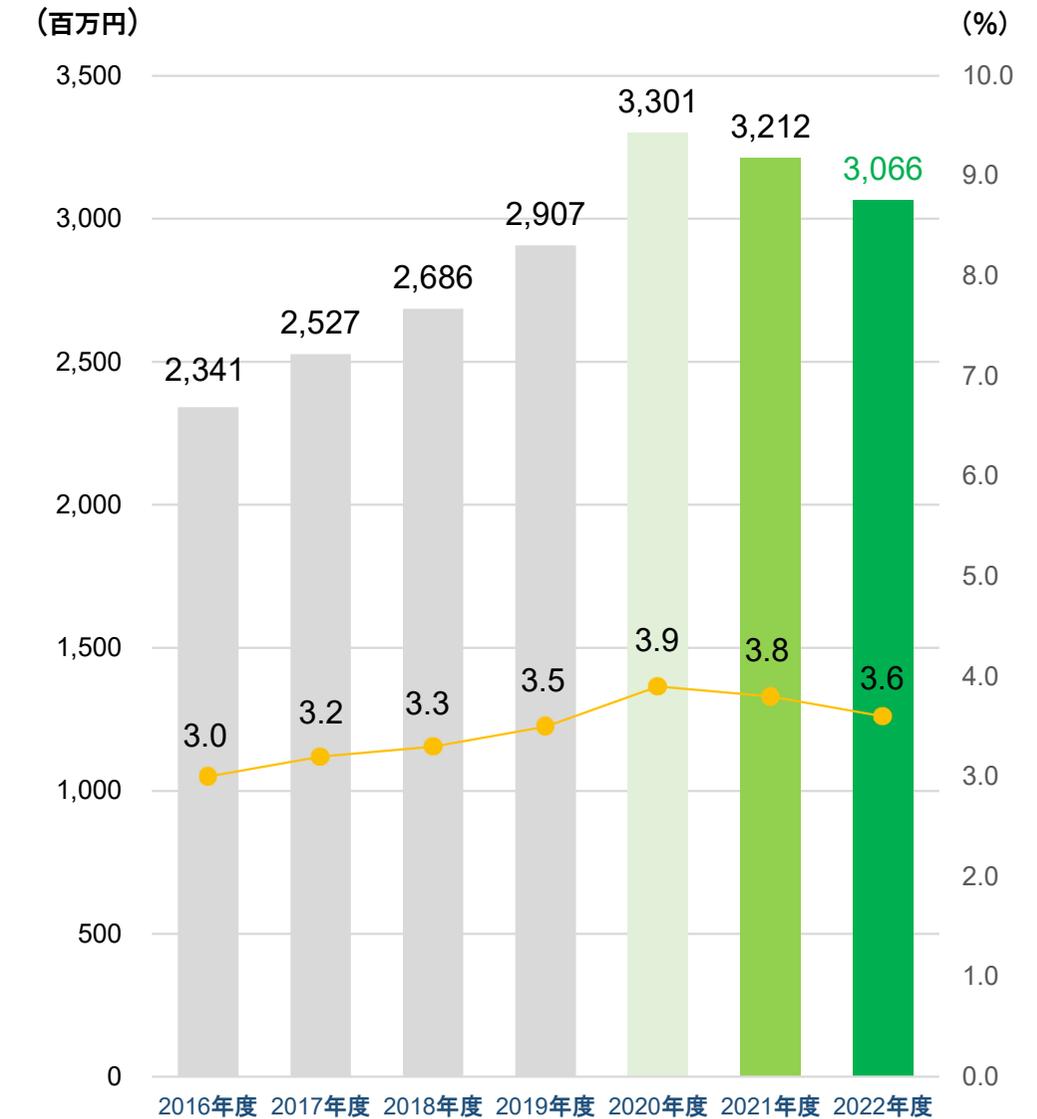
## 経常利益

● 利益率



## 親会社株主に帰属する四半期純利益

● 利益率



# セグメント別営業収益および利益の概要

(単位:百万円)

		前期実績		当期実績			主な増減要因
			構成比		構成比	対前期増減率	
<b>TC事業</b> <small>(通過型センター事業) Transfer Center</small>	営業収益	54,225	64.2%	55,140	63.9%	1.7%	増加要因 ・新規物流施設の開設等、物流インフラの拡充による新規業務の獲得。(MU首都圏物流センター、岡山物流センター 他) ・コンビニエンスストア物流事業における、行動制限の緩和に伴う取扱物量の回復傾向。
	セグメント利益	3,015	40.3%	3,133	43.2%	3.9%	減少要因 ・小売業における全体的な店舗売上不振に伴い量販店事業の取扱物量が減少。
	(利益率)	5.6%		5.7%			増加要因 ・新規業務の開始、既存業務の物量回復による収益性向上。 ・輸配送車両の供給不足による代替遅延に伴う減価償却費の減少。
							減少要因 ・電力需給の変化およびエネルギーコスト上昇による電力費増加。 ・正社員登用、処遇改善による労務費増加。 ・燃油単価上昇による燃料費の増加。
<small>(注1)</small> <b>DC事業</b> <small>(保管在庫型物流事業) Distribution Center</small>	営業収益	28,911	34.2%	29,758	34.5%	2.9%	増加要因 ・新規物流施設の稼働開始等、物流インフラの拡充による新規業務の獲得。(HN中部支店 三期増築棟 他) ・外出機会の増加に伴い、業務用食品の取扱物量が回復傾向。
	セグメント利益	4,339	58.0%	3,990	55.1%	△8.0%	減少要因 ・一部取引先の物流再編に伴う物量減少。
	(利益率)	15.0%		13.4%			増加要因 ・業務効率化・内製化による人材派遣等の労務費削減。
							減少要因 ・電力需給の変化およびエネルギーコスト上昇による電力費増加。 ・燃油単価上昇による燃料費の増加。
<small>(注2)</small> <b>その他</b>	営業収益	1,310	1.6%	1,349	1.6%	3.0%	
	セグメント利益	127	1.7%	124	1.7%	△2.6%	
	(利益率)	9.7%		9.2%			

(注1)『DC事業』にはベトナム事業が含まれております。

(注2)『その他』には警備輸送業、病院等関連物流業、人材派遣業、および保険代理店業等が含まれております。

# 業態別営業収益の概要

(単位:百万円)

	前期実績		当期実績				主な増減要因
		構成比		構成比	増減額	増減率	
(注1) 共同配送	49,834	59.0%	51,596	59.8%	1,761	3.5%	<p>増加要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規物流施設の開設等、物流インフラの拡充による新規業務獲得。</li> <li>外出機会の増加に伴い、業務用食品の取扱物量が回復傾向。</li> </ul> <p>減少要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部取引先の物流再編に伴う物量減少。</li> </ul>
コンビニエンスストア物流	11,133	13.2%	11,271	13.1%	137	1.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動制限の緩和により首都圏の店舗においても取扱物量が回復傾向。</li> </ul>
チェーンストア物流	10,407	12.3%	10,212	11.8%	△ 195	△1.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規取引先の獲得はあるものの、小売業における全体的な店舗売上不振に伴い取扱物量が減少。</li> </ul>
(注2) 問屋物流	7,498	8.9%	7,178	8.3%	△ 319	△4.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に小売業の伸長が鈍化するなか、一部取引先の物流再編により取扱物量が減少。</li> </ul>
保税・加工	2,240	2.7%	2,432	2.8%	191	8.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍以降低調であった輸入物量が回復傾向。</li> </ul>
(注3) その他	3,333	3.9%	3,557	4.1%	224	6.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済活動の回復に伴う、化粧品・雑貨の取扱物量回復。</li> <li>海外事業における円安の進行に伴う為替影響により増収。</li> </ul>
<b>【合計】</b>	<b>84,447</b>	<b>100.0%</b>	<b>86,248</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,800</b>	<b>2.1%</b>	

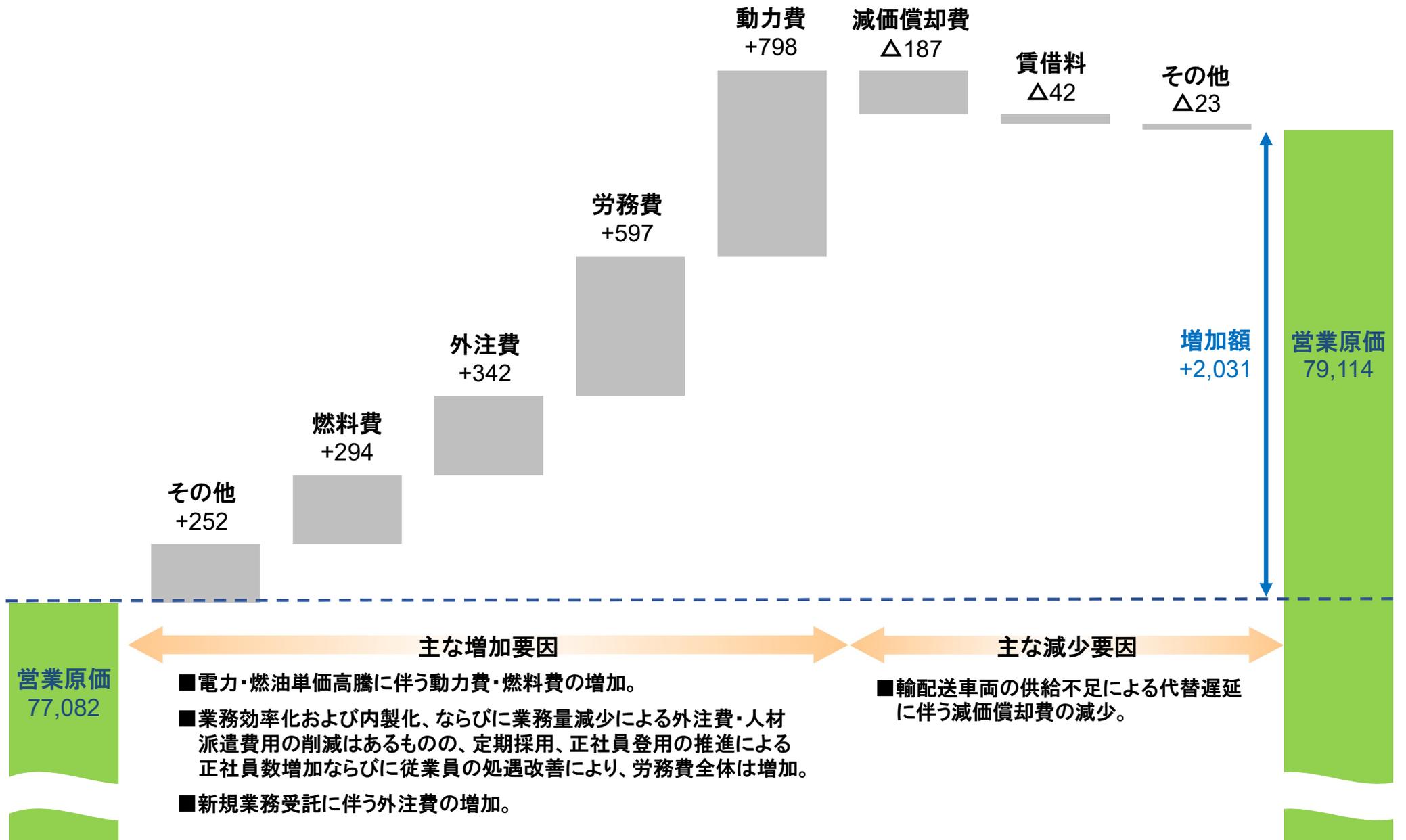
(注1)『共同配送』はHNIにおけるフローズン(DC事業)およびMUJにおけるチルド(TC事業)を合算した数値になります。

(注2)『問屋物流』には病院食材物流が含まれております。

(注3)『その他』には警備輸送業、病院等関連物流業、人材派遣業、保険代理店業およびベトナム事業などが含まれております。

# 営業原価の分析

(単位:百万円)



2021年度3Q

2022年度3Q

# 人員と車両台数の比較(前期末比較)

## (1)人員の比較

(単位:人)

	前期末 (2022年3月末時点)	当期末 (2022年12月末時点)	増減	主な増減要因
<b>社員</b> (内、ドライバー)	5,792 (2,921)	5,998 (2,981)	206 (60)	・新卒者定期採用。(137名) ・正社員登用による増加。
<b>準社員、パート・アルバイト</b> (内、ドライバー)	5,742 (1,229)	5,534 (1,153)	△ 208 (△ 76)	・正社員登用による減少。 ・コロナ特需の収束による業務量減少に伴う人員減。 ・外国人留学生の入国者数減少および帰国者の増加によるアルバイト人員の減少。
<b>合計</b> (内、ドライバー)	11,534 (4,150)	11,532 (4,134)	△ 2 (△ 16)	

## (2)車両台数の比較

(単位:台)

	前期末 (2022年3月末時点)	当期末 (2022年12月末時点)	増減
<b>大型車</b>	691	709	18
<b>中型車</b>	1,554	1,563	9
<b>小型車</b>	457	465	8
<b>現金輸送車</b>	126	120	△ 6
<b>合計</b>	2,828	2,857	29

低温物流の新たな価値を創造します。



- ※ 本資料は、2022年度の当社の連結決算公表時(2023年2月10日)の数値をベースに、作成日現在(2023年2月13日)において、入手可能な情報に基づき作成したものです。  
今後の業績等につきましては、様々な要因によって変動する可能性がありますので、お含みおきください。
- ※ 本資料は当社グループの決算概要をご理解いただくことを目的として作成したものであり、株式会社C&Fロジホールディングスの株式等の売買の勧誘を目的とするものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先  
株式会社C&Fロジホールディングス  
TEL:03-5291-8100 FAX:03-5291-6150  
広報IR部/坂井 建一郎

# 参考情報

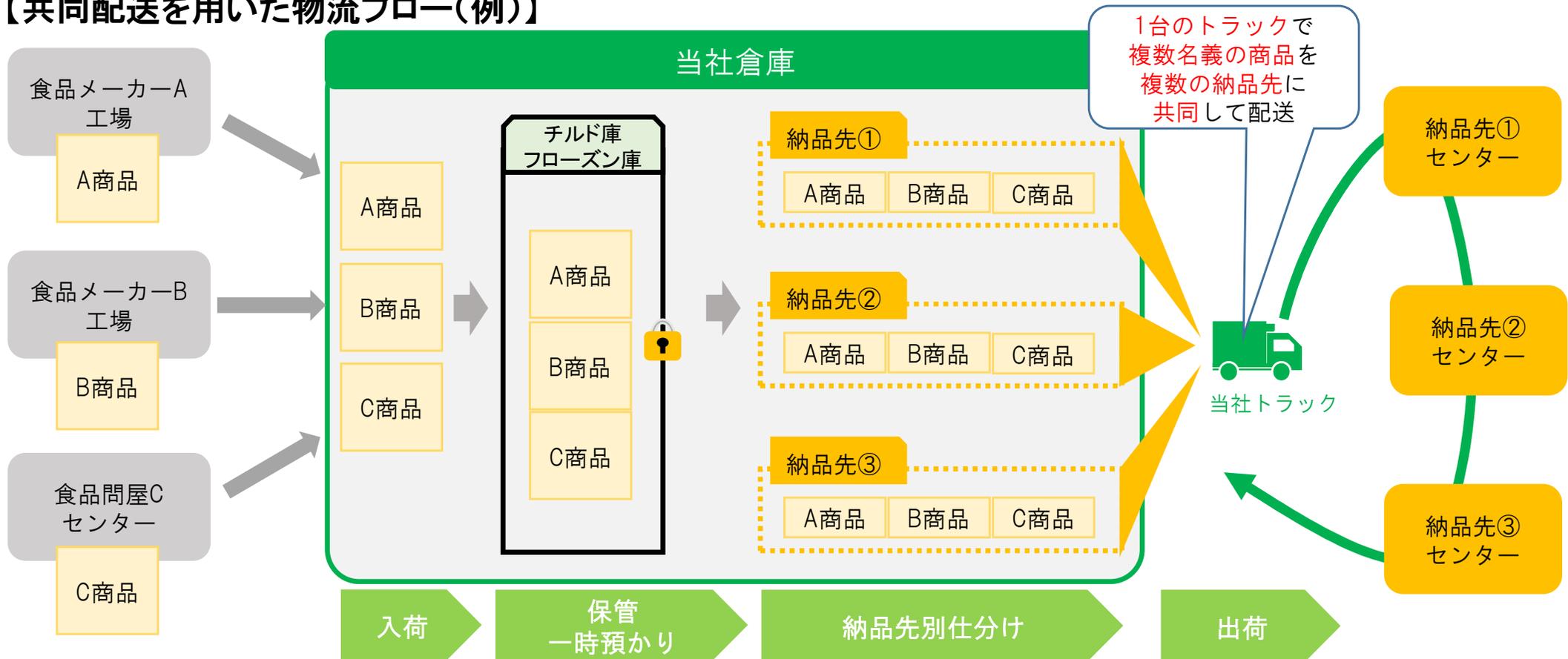


C&F LOGISTICS

# 参考情報 -共同配送モデル-

名糖運輸・ヒューテックノオリンはそれぞれチルド帯・フローズン帯における共同配送物流を他社に先駆けて事業化。両社とも長年取り組んできた共同配送におけるノウハウの蓄積は、当社の最大の強みとなっている。

## 【共同配送を用いた物流フロー(例)】



荷主様が自社で配送する場合  
当社(共同配送)を用いる場合

…荷主様ご自身がトラックを用意し納品先①、②、③にそれぞれ納品  
…当社倉庫への一括納品

### 共同配送の効果

- ・荷主様の物流コスト削減が可能。
- ・当社一元管理による品質の安定化。
- ・使用する車両台数が減ることで、排気ガス排出量削減。

## TC事業

Transfer Center  
通過型センター事業

365日24時間体制で、**主にチルド食品**を中心とした低温食品の物流センター業務および輸配送を行う。

➡ **保管期間が短く、ほとんど預り在庫を持たない(≒通過型)事業モデル**

- ▶ **共同配送事業** 異なる複数の顧客から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。
- ▶ **コンビニエンスストア物流事業** コンビニエンスストア各社の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。
- ▶ **チェーンストア物流事業** スーパーマーケット等の量販店のチルド・ドライ商品の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。



- 拠点数 関東地方を中心に全国93店所  
(協力会社除く)
- 主な取扱品目
- 市販用チルド飲料・チルドデザート  
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど
  - 市販用ドライ食品  
…スーパーマーケットなど

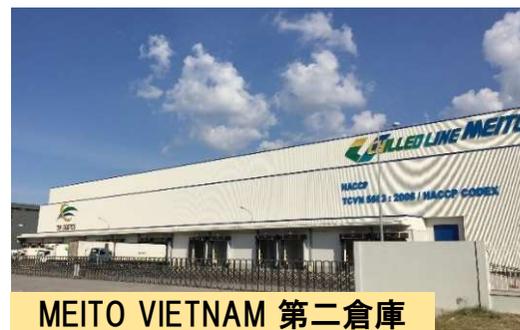
## DC事業

Distribution Center  
保管在庫型物流事業

主に**冷凍食品**の保管・荷役および輸配送を一体的に行う事業。  
当社の倉庫内にて多様な寄託貨物の保管・名義変更や車両別・届先別の仕分けを行うと共に、専用車による輸配送業務を行う。

➡ 保管期間が長く、**預り在庫を持つ(≒保管型)事業モデル**

- ▶ **共同配送事業** 異なる複数の寄託者から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。
- ▶ **病院食材物流事業** 約3,300の医療・福祉施設等への給食用食材を仕分け・配送する。
- ▶ **リパック加工業** 冷凍野菜等の原料に市販用・業務用としてパッケージ詰め加工(=リパック加工)を施す。
- ▶ **海外(ベトナム)事業** ベトナム社会主義共和国において、主に冷凍食品の加工原材料の保管、荷役、配送を行う。  
("MEITO VIETNAM CO., LTD."、"T&M TRANSPORTATION CO., LTD.")



- 拠点数** 関東地方を中心に全国28店所  
(ベトナム・協力会社除く)
- 主な取扱品目**
- 業務用冷凍加工食品  
…レストラン、病院、老介護施設など
  - 市販用冷凍加工食品  
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど



## その他

主要事業であるDC事業・TC事業以外の物流業務に関連する付帯サービスを中心とした事業

- ▶ **警備輸送業** 警備業法に基づき、首都圏の金融機関で取り扱う現金や手形などの重要書類や、貴重品等の警備輸送を行う。
- ▶ **病院等関連物流業** 病院はもとより老人ホーム、老人健康管理施設や薬局まで関東1都6県約2,000件の医療福祉関連施設を対象にリネン類(シーツ、タオル、白衣等)の配送・集荷作業を行う。
- ▶ **人材派遣事業** 乗務員、倉庫作業員等、物流業務に特化した人材をグループ内外へ派遣。
- ▶ **保険代理店業** 車両を中心とした保険商品をグループ各社、取引先、従業員・従業員の家族等に提案する代理店事業。

など・・・